

Title	平面構成自習ツール「Gratio」の設計と実装
Sub Title	Design and implementation of "Gratio" : a tool for composition self-learning
Author	鈴木, 章(Suzuki, Akira) 大川, 恵子(Okawa, Keiko)
Publisher	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科
Publication year	2012
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究では、「平面構成」の新しい自習方法を提案し、そのためのツールを設計・開発する。人と人とのコミュニケーション方法は、今までは文章を書くことや会話することが中心であった。しかし、コンピュータやインターネット環境が広まり、言葉や文字以外のヴィジュアルコミュニケーション、言い換えれば図や写真、映像等を中心にした視覚伝達を図ることが重要になってきた。ところが、誰もがヴィジュアルコミュニケーションを上手に出来るわけではない。また、ヴィジュアルコミュニケーションは美術・デザイン系の大学学部、専門学校において学ぶものであり、誰もが簡単に学べるというものではない。本研究では上記を問題として捉え、解決するために、イメージを的確に表現する画面構成力、すなわち「平面構成」を学ぶことに着目する。従来、平面構成はデザイン基礎教育の一端を担うものとして学校で専門家から学ぶものであった。先生が生徒の作ったものを講評し、点数をつけ、また学習を繰り返す。しかし、ヴィジュアルコミュニケーションの日常化により、専門家が身近にいない環境の一般人が平面構成を手軽に独習する効果的な方法が必要となってきた。上記を踏まえ、特別な書籍・カリキュラムを使用せず、好きな時に手軽に自学自習する、新しい平面構成の学びを提案し、タブレット型PCで動作するツールを設計・実装する。その後、ユーザーによる利用実験および評価を通して、有効性を検証する。</p>
Notes	修士学位論文. 2012年度メディアデザイン学 第237号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40001001-00002012-0237">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40001001-00002012-0237</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文 2012 年度（平成 24 年度）

平面構成自習ツール「Gratio」の設計と実装

慶應義塾大学大学院  
メディアデザイン研究科

鈴木 章

本論文は慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科に  
修士(メディアデザイン学)授与の要件として提出した修士論文である。

鈴木 章

審査委員：

大川 恵子 教授 (主査)

砂原 秀樹 教授 (副査)

徳久 悟 特任講師 (副査)

修士論文 2012 年度（平成 24 年度）

## 平面構成自習ツール「Gratio」の設計と実装

### 論文要旨

本研究では、「平面構成」の新しい自習方法を提案し、そのためのツールを設計・開発する。

人と人とのコミュニケーション方法は、今までは文章を書くことや会話することが中心であった。しかし、コンピュータやインターネット環境が広まり、言葉や文字以外のヴィジュアルコミュニケーション、言い換えれば図や写真、映像等を中心にした視覚伝達を図ることが重要になってきた。ところが、誰もがヴィジュアルコミュニケーションを上手に出来るわけではない。また、ヴィジュアルコミュニケーションは美術・デザイン系の大学学部、専門学校において学ぶものであり、誰もが簡単に学べるというものではない。

本研究では上記を問題として捉え、解決するために、イメージを的確に表現する画面構成力、すなわち「平面構成」を学ぶことに着目する。従来、平面構成はデザイン基礎教育の一端を担うものとして学校で専門家から学ぶものであった。先生が生徒の作ったものを講評し、点数をつけ、また学習を繰り返す。しかし、ヴィジュアルコミュニケーションの日常化により、専門家が身近にいない環境の一般人が平面構成を手軽に独習する効果的な方法が必要となってきた。

上記を踏まえ、特別な書籍・カリキュラムを使用せず、好きな時に手軽に自学自習する、新しい平面構成の学びを提案し、タブレット型 PC で動作するツールを設計・実装する。その後、ユーザーによる利用実験および評価を通して、有効性を検証する。

キーワード：

平面構成、ヴィジュアルコミュニケーション、ラーニングプロセス

慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科

鈴木 章

Abstract of Master's Thesis of Academic Year 2012

## Design and implementation of "Gratio" – a tool for composition self-learning –

### Summary

The purpose of this research is to develop a tool which would allow any member of the public to conduct self-study regarding composition. The fact that, for many people, communication until now centered on writing and speaking forms the background of this research. However, with the spread of the computer and internet environments, planning for visual communication in the areas separate from words and text has become important. However, not everybody can conduct such expression skillfully. Moreover, since visual communication is a specialized field, it is not something that can be easily learned by anybody. In order to resolve the above problem, this research has set the learning of “composition,” an important element in the field of design, as its goal. Until now, composition was learned as a specialized field from a specialist in a school. Teachers would review what the student had created, grade it, and the learning process would repeat itself. However, not everybody can have such an experience, and the end result, in such an environment where the majority of people must learn independently, is that learning is difficult. Based on these points, I will verify the effectiveness of allowing users to use tablet PC to perform design and implementation, learning easily by themselves when they want in a novel way, without using any special materials or curriculums.

Keywords :

Composition, Visual communication, Learning process

Graduate School of Media Design, Keio University

Akira Suzuki